

STOP! 着衣着火

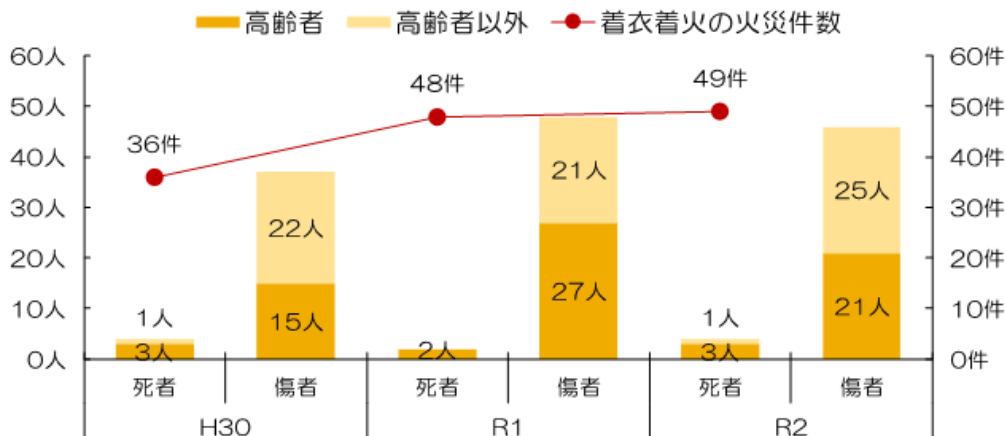
東京消防庁

着衣着火って何？

着衣着火とは、調理中にこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が身に付けている衣服に着火した火災をいいます。

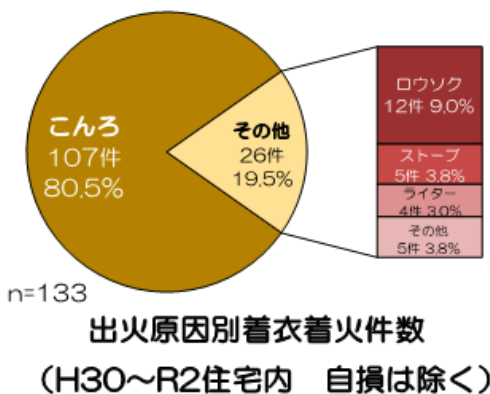
着衣着火の発生状況

- 令和2年の死傷者が発生した着衣着火による住宅火災件数は49件で、前年と比較すると1件増加しています。
- 令和2年の着衣着火による死者数は4人で、前年と比較すると2人増加しています。



死傷者が発生した着衣着火件数・死者数・傷者数 (H30~R2住宅内 自損は除く)

- 着衣着火件数のうち、「こんろ」を出火原因とする住宅火災は8割を占めています。



こんろによる着衣着火の事例は、次ページをご覧ください。

こんろによる着衣着火

過去3年間の住宅火災で、こんろを出火原因とする着衣着火の主な事例をご紹介します（H30～R2住宅内、全107件、死者8人、傷者103人）

顔（4人）

女性90代は、自宅の台所で調理をしていた際に、エプロンの袖がこんろの火に接触して、着火し、受傷した（中等症）。

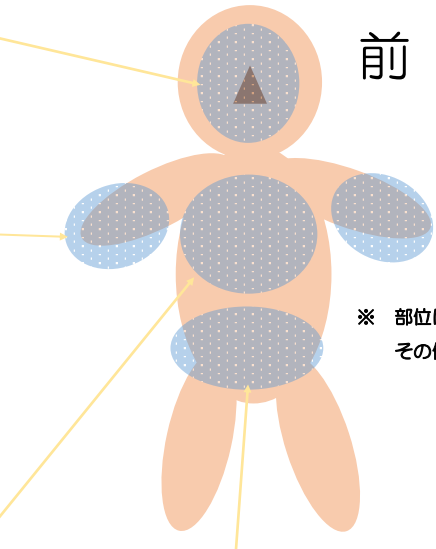
手・腕（34人）

①女性60代は、調理中、レンジフード内のナットの緩みに気づき、ナットを締めようと手を伸ばした際に、こんろの火が上衣に着火し、受傷した（重篤）。

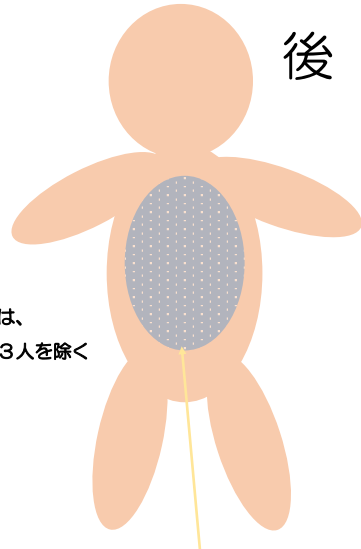
②女性40代は、夕食の準備中に既往症の発作が起こり、意識を失った際に、こんろの火が着衣に着火すると同時に、手部を火傷した（中等症）。

胸部（8人）

女性60代は、台所の棚にある食料を取ろうとした際に、こんろの火が着ていたブラウスの右腰部分に着火し、受傷した（軽症）。



前



後

※ 部位については、
その他部位43人を除く

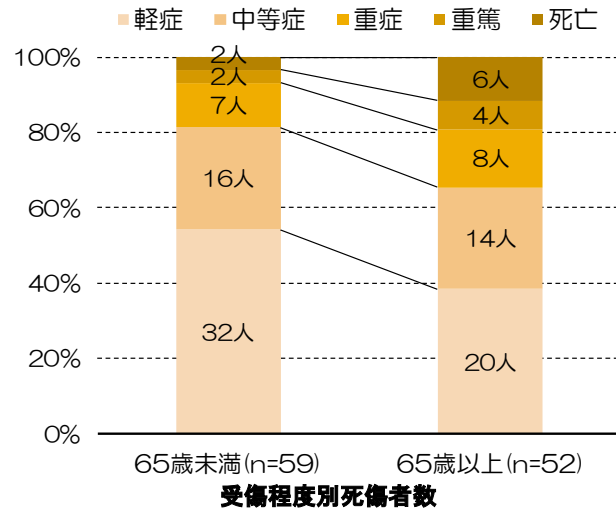
腹部（7人）

女性30代は、哺乳瓶を煮沸消毒中、こんろ上部のフックに調理器具をかけようとした際に、着衣に着火し、受傷した（軽症）。

背部（15人）

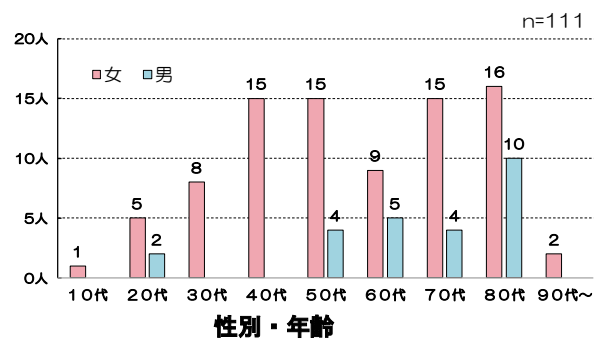
男性60代は、床に置いた簡易型ガスこんろで調理中、後ろを振り返った際に、着衣に着火し、受傷した（軽症）。

高齢者は素早く消火ができず、重症化してしまう場合が多くあります。



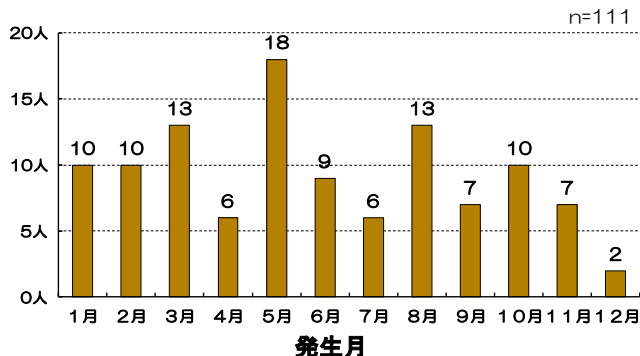
女性に多い

こんろによる着衣着火の死傷者は、女性が男性の3倍以上です。年齢では、80代が最も多く、40代から80代の間で多く発生しています。



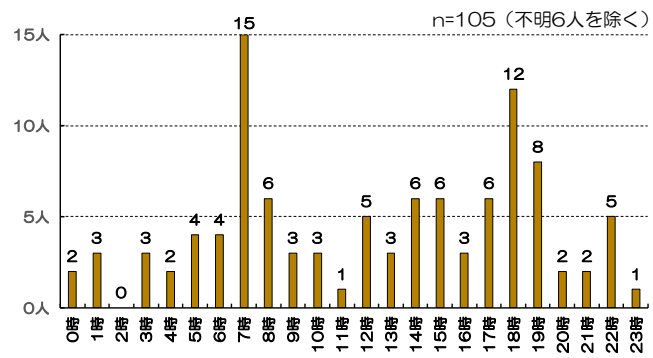
生活・服装の変化

こんろによる着衣着火の死傷者は、年間を通して発生しており、特に5月に多く発生しています。



調理する時間帯に注意

こんろによる着衣着火の死傷者は、こんろを使用し調理する時間帯と考えられる7時台及び18時台で多く発生しています。



着衣着火を防ぐポイント

- 調理中は、マフラー・ストールなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意しましょう。
- こんろのまわりに物を置かないようにしましょう。こんろのまわりの物を取る時に、着衣に燃え移る事例が多数発生しています。
- 鍋等の底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調整しましょう。
- カセットこんろ等は取り扱い説明書をよく読んで正しく使いましょう。



防災品を使用しましょう

- 防災品は、小さな炎が接触したとしても着火しにくく、着火したとしても燃え広がりにくい効果を有しています。
- 防災品にはエプロンやアームカバーがあり、防災品を身に付けて調理中の着衣着火を予防しましょう。



↑ 防災品 ↑ 非防災品



防災品は
このラベルが
目印!

もしも着衣に着火した時は

脱ぐ、たたく、水をかけるなどして早急に消火し、119番通報を行いましょう!!

問合せ先

荻窪消防署 警防課 防災安全係 電話番号 03-3395-0119 内線322